

中部地区大会

～敦賀港カッターレースと同時開催～

7月30日～31日にかけて、福井県敦賀市で第20回日本海洋少年団中部地区連盟大会（敦賀団主管）を8団130名の参加を得て開催した。

敦賀市では昭和54年以来38年ぶりの開催で、前回1200人参加に比べ9分の1と規模は小さくなったが、競技を中心に交流できるよう準備を行った。

この夏一番の暑さとなった初日は、きらめきみなと館での開会式の後手旗とロープワークの競技を行った。新入団員でも参加できるよう、手旗競技は原画を受信し、ロープワーク競技も5種類の結索法を試すB競技を実施した。A競技・B競技とも、満点合格者には満点章を授与したほか、8割以上得点できた団員には、奨励賞を授与した。なお、B競技の満点章は、連盟で規定されていないため、平成30年の福井国体のキャラクター「はびりゅう」のピンバッジを授与した。送受信競技は6チームが参加し、5人で15分以内と言うローカルルールで行ったが、満点を取れたのは敦賀団Aのみだった。



敦賀港は、杉原千畝領事がリトアニアで発行した「命のビザ」でユダヤ人を受け入れた日本で唯一の港で、「人道の港」と呼ばれている。今回の大会でも、おもてなしを前面に打ち出すため、宿舎である自然の家に敦賀名物の屋台ラーメンを呼び、多くの参加者が夕食後にもかかわらずラーメンを食べた。ただ、屋台が来たときに鳥合の衆よろしく団員が殺到したため、その場にいた指導員が一行縦隊の号令をかけると、団員や指導者はすぐさま列を形成し、大人しく待っていたのは海洋の訓練の成せる技だと皆感心した。

2日目のカッター競技は、第21回敦賀港カッターレースと同時開催を行い、参加チームに交じってレースを行った結果、団員チームが先着するという実力を見せることができた。

昼食はこれまた敦賀の名物ソースかつ丼を味のお城「ヨーロツパ軒」で食べ、敦賀の美味しいもの満載の大会が終了した。
（敦賀団 橋詰裕）

